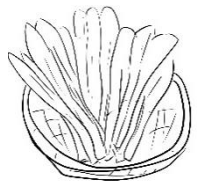


行者

ぎよう じや
行者とは、道を歩む者から発展して修行をする者という意味



イチゴの旬は四月頃だと
思はらうです
茗荷取

で用いられます。戒律を守り、執着する心を離れ、煩惱を抑え、仏陀になることを目指す者を行者といいます。

また、同じ漢字でも「あんじゃ」と読むと、意味が変わります。あんじゃは寺院で雑務をする人の事を指します。同じ漢字で意味が近いところで変わるとややこしくなりますね。

今回は「ぎようじや」の方で記していきます。仏教は、出家をする人以外にも広まってきました。在家といいます。普段の生活をしながら仏法を信奉していく人の事です。そこで問題が出てきました。煩惱を離れられず、殺生をして生活をしている我々は仏陀となれないのではないかと。そうして、大乘仏教運動が起こります。仏教が更新されたのです。その中で、阿弥陀如来をすくい中心へ据えた浄土教が生まれます。本来ならば、我々が必要しなければならぬ行は、すべて阿弥陀如来が成就してくださった。その功德が名となり声となつて私へ南無阿弥陀仏と届けられていると他力の浄土教が親鸞聖人



によって開かれました。

こんなところに 仏教用語

身近な仏教用語を紹介しています。

行住坐臥

ぎよう じゆう ざ
が
範馬刃牙
という格闘



漫画に出てくる台詞です。

「行住坐臥、闘いと言わねばならぬ格闘家が、武闘場に入ってから油断をする」

負けた主人公に浴びせた痛烈な言葉です。

この行住坐臥が今回のテーマです。行住坐臥とは、人間の動作を四つに分けた総称です。

行：歩くこと 住：止まること

坐：すわること 臥：横になること

漫画では、常に油断せずに戦いの事を考えなさいと諭していたのです。仏教において常に行住坐臥、念仏をする行があります。それが常行三昧という行です。ひたすら阿弥陀仏の周りを何日も何日も南無阿弥陀仏南無阿弥陀仏と念仏を称えつつ歩きます。

横になることは許されません。どうしても眠りたいときは、柱にひもで体を縛ってもらい、立ちながら仮眠をとります。こうした行のできないものの為に、浄土真宗は開かれました。



私ではなく阿弥陀仏が行住坐臥、はたらいておられるのです。